

第4次斑鳩町男女共同参画推進計画（骨子案）

1. 第3次斑鳩町男女共同参画推進計画の概要

【計画名称】

女（ひと）と男（ひと）が輝く未来計画

【テーマ】

女（ひと）と男（ひと）がともに輝いて暮らせる男女共同参画のまちづくり

【基本目標】

- 基本目標1 男女共同参画社会実現にむけた意識づくり
- 基本目標2 男女がともに社会のあらゆる分野に参画できる基盤づくり
- 基本目標3 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進
- 基本目標4 男女間の暴力等を許さない社会づくり
- 基本目標5 誰もが安心して暮らせる環境づくり

2. 第3次計画策定後の10年間の変化や課題

【10年間の変化】

- ・「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」施行（令和6年4月）
- ・DV、女性活躍、多様性支援など施策が広範囲化
- ・両立可能な働き方や無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）への対応が必要
- ・町の審議会女性委員の割合は緩やかに増加

【住民意識調査から見えた課題】

- ・男女の平等感：職場では改善、家庭や政治では課題感あり。
「わからない」層も増加
- ・結婚・家庭観：教育・啓発による古い価値観の更新が必要
- ・仕事と生活：柔軟な働き方、性別役割分担意識の見直しが必要
- ・人権（セクハラ・DV）：問題認識と啓発の継続が重要
- ・性的マイノリティ：教育、職場での理解促進が課題
- ・町の取組み：各取組みの認知度が低く、周知の強化が必要

3. 第3次計画の指標等の結果

指標	基準値	目標値 (令和7年度)	結果
15～64歳女性の就業率	51% (H22国勢調査)	R2年国勢調査の全国女性就業率と同等またはそれ以上	町63.9% 全国62.3% (R2国勢調査)
「家事、育児・介護は女性がするほうがよい」と考える住民の割合	38.2% (H26住民意識調査)	H26住民意識調査の賛成割合より低下させる	23.3% (R6住民意識調査)
「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」のいずれも優先したいと思う住民の割合	希望33% 現実7% (H26住民意識調査)	現実の割合を希望に近づける	希望45.7% 現実10.0% (R6住民意識調査)

【基本施策の取組み】

- ・ 審議会等の女性委員割合35%以上の実現→ 34.1% (R7) (資料2)
- ・ 町管理職の女性割合20%以上の実現→ 29.4% (R7)

4. 第4次男女共同参画推進計画について

【方向性】

社会課題や価値観の多様化が進む中で、誰もが尊重され、自分らしく生きられる社会の実現にむけて、「意識改革と気づきの促進」を重視し、あらゆる世代・場面に応じた周知啓発を強化する。

【計画名案】

女（ひと）と男（ひと）が輝く未来計画

【テーマ案】

- ① だれもが輝いて暮らせる男女共同参画のまちづくり
- ② みんなが輝いて暮らせる男女共同参画のまちづくり
- ③ 一人ひとりが輝いて暮らせる男女共同参画のまちづくり
- ④ あらゆる人々が輝いて暮らせる男女共同参画のまちづくり

【基本目標案】

- 基本目標1 多様な生き方ができる社会の実現にむけた意識づくり
- 基本目標2 誰もがあらゆる分野で活躍できる基盤づくり
- 基本目標3 誰もが安心して暮らせる社会づくり

5. 計画書の構成案

第1章 計画の基本的な考え方

- これまでの取組により一定の進展は見られるものの、性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）は今も根強く残っており、引き続き取組が必要。また、今日的な社会情勢として、少子高齢化の進展や働き方改革関連法の施行、女性活躍推進法の改正などに対応した新たな課題に対する取組みが求められている。さらに、第3次計画期間の新型コロナウイルス感染症の拡大により、雇用・就業への影響や配偶者等からの暴力の増加・深刻化の懸念など、社会的・経済的影響がもたらされている。
- このような状況をふまえて、性別に関わらずすべての人が個性を認め合い、対等な関係で、社会のあらゆる分野で活躍することができる男女共同参画社会を実現するための総合的な行動計画として、第4次計画を策定し、この計画を行動指針に住民、事業者、関係団体・機関、行政などが連携・協働のもと各種施策を推進するものとする。

第2章 計画策定の背景

- 男女共同参画に関する世界・国・奈良県の動き（資料3）
- 男女共同参画に関する社会の状況（資料4）

第3章 計画の内容

- 計画の体系（資料5）

第4章 計画の推進

- 指標の設定

基本目標1 多様な生き方ができる社会の実現にむけた意識づくり

- ・ 社会通念・慣習・しきたりにおいて「男女平等」と感じている人の割合の増加
- ・ 「家事、育児・介護は女性がするほうがよい」と考える住民の割合の減少
- ・ 性的マイノリティが生活し辛い社会だと思う人の割合の減少

基本目標2 誰もがあらゆる分野で活躍できる基盤づくり

- ・ 「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」いずれも優先したいと思う住民の現実の割合を希望に近づける
- ・ 審議会等の女性委員の割合の増加
- ・ 町管理職の女性の割合の増加

基本目標3 誰もが安心して暮らせる社会づくり

- ・ 自身のまわりでセクシュアル・ハラスメントはないと思う人の増加
- ・ DV被害の経験が全くない人の増加